

海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：Vanderbilt大学（アメリカ）



<p>Q. 今回の留学プログラムの感想</p>	<p>この1か月間の臨床留学は、私の今後のモチベーションとキャリア選択に大きな影響を与える貴重な経験となりました。Vanderbilt大学のNeuroradiologyでは、Resident、Fellow、Attendingの先生方の読影業務をShadowingしながら、症例ごとに重要な読影ポイントや診断のプロセスを直接学ぶことができました。特に印象的だったのは、診断に至るまでの論理的なアプローチの精度と、各症例に対するディスカッションの活発さです。日々の読影において、解剖学的知識や臨床的背景の理解がいかに重要であるかを改めて認識し、自身の知識の整理と向上に努めることができました。</p> <p>また、現地の医学生や同時期に実習に参加した海外の留学生との交流を通じて、異なる医療システムや学習文化を肌で感じることもできたのも大きな収穫です。医学教育の進め方や診療スタイルの違いを知ることで、日本の医療と比較しながら自身の視野を広げることができました。この経験を今後の学習に活かし、より国際的な視点を持った医師を目指したいと考えています。</p>
<p>Q. 健康管理や危機管理について</p>	<p>幸い、この1か月間の滞在中に体調を崩すことはなく、危険な目に遭うこともありませんでした。日本と比較して実習の開始時間が早いので、生活リズムを整え、十分な睡眠を確保することが重要だと感じました。</p> <p>また、Nashvilleは比較的治安の良い都市ですが、夜間や人通りの少ないエリアでは注意が必要です。特に、主要な通りを外れると治安が悪化する場所もあり、違法ドラッグの匂いがするエリアもあるため、不必要に立ち入らないようにすることが大切です。</p>
<p>Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</p>	<p>Vanderbilt大学での実習は世界トップレベルの医療環境を体感できる非常に貴重な機会です。先生方はとても親切で、質問すれば丁寧に教えてくれますし、留学生へのサポート体制も整っています。臨床留学に興味がある方は、ぜひ挑戦してみてください。準備の段階では大変なこともあります。その努力に見合う価値のある経験が待っています。もし質問や相談があれば、気軽に連絡してください！</p>
<p>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前など大変や不安だったこと</p>	<p>派遣が決定してから、短期間で多くの書類を準備する必要があり、その対応が非常に大変でした。予防接種の証明や健康診断書など、日本国内での手続きが必要なものも多いため、早めに確認し準備を進めることが重要です。また、ビザの取得や航空券の手配、現地での宿泊先の確保など、渡航準備も並行して行う必要がありました。これらの作業は一人で進めるのは大変なので、先輩や同時期に渡航する同級生と情報を共有し、協力しながら進めることをおすすめします。</p>

留学中のお気に入りの写真



コメント：アイスホッケーの試合を観戦した後、歩行者天国となった目抜き通りで撮影した一枚です。ライブハウスからはカントリーミュージックが流れ、街全体が活気に満ちていました！

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：Vanderbilt University(アメリカ)

<p>Q.今回の留学プログラムの感想</p>	<p>腫瘍内科で実習を行いました。朝6時からの実習は、大変忙しく重症の患者さんも多くて精神的にも大変でしたが現地の学生やresidentの方が大変優しくいただき4週間頑張ることが出来ました。Outpatient clinicでは学生が全ての身体診察や問診を行い、それをattendantの先生にプレゼンして、先生は本当に少し患者さんとお話するだけというスタイルだったのが大変印象に残っています。このように学生が大きな役割を果たせるのは大変いい経験になり、患者さんとお話するのも留学前までは自信がありませんでしたが、毎日お話をすることで少しずつ自身がつきました。</p>	<p>留学中のお気に入りの写真</p> <p>Vanderbilt-Ingram Cancer Center</p> <p>コメント：Vanderbiltは診療科によってプログラムが大きく異なります。気になる科があったらいつでも連絡してください。現地の人や過去に派遣された先輩に聞くことが出</p>
<p>Q.健康管理や危機管理について</p>	<p>インフルエンザがとても流行していたらしく(2月)、みなさんとも気を使っていたので私も気を付けました。</p>	
<p>Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</p>	<p>とても忙しくてはじめは大変に思うかもしれませんがその分たくさん学びを得ることが出来ます。特にプレゼン能力や患者さんにいかに接するかは毎日実習する中でたくさん学べると思います。また、学生と交流する機会が特に多いと思いますがいろいろな人に将来のキャリアを聞いてみると面白いと思います。皆さん一度は大学を卒業している方たちなので何かしらの専門性を持って、何か特定のことに深い興味を持っている人が多いと思います。</p>	
<p>Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</p>	<p>ワクチン証明書の発行がぎりぎりになってしまい、間に合うか心配でした。2月派遣の人は、コロナとインフルのワクチン接種が年末にあるので追加接種が必要な項目は早めに確認してインフルやコロナのワクチン接種前に接種を済ませておいた方がいいと思います。</p>	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：ヴァンダービルト大学病院(アメリカ)



Q.今回の留学プログラムの感想	毎日朝5時台に病棟集合、4日に一度当直もあり、日本と比べハードな実習スケジュールだった。多くの手術で術野に入ることができ、クリニックでも自分で医療面接を行う機会を多く頂き、色々なことを体験できた実習であった。周りのレジデントは皆1年目から非常に優秀で、朝早くからの長時間スケジュールをハードとも思わずとてもよく働き、一緒にいると毎日が刺激的だった。英語でのコミュニケーション、医学的なスキルなど、彼らの中に入ってアメリカで働くには自分に何が足りないのか、具体的に考えるとても良い機会となった。
Q.健康管理や危機管理について	ナッシュビルは、特に大学周辺はとても安全で、身の危険を感じたことはなかった。朝家を出る頃はまだ暗かったが、女性一人で歩いても問題はなかった。病院はセキュリティが厳しく、入り口で金属探知ゲートを通る必要があった。
Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	モチベーションの高い優秀な人たちに刺激を受けながら、アメリカで働くスケジュールを体感できます。どのプログラムに応募するにしても、留学前には「何のために留学するのか」を自分なりに考えておくことを推奨します。留学中、優秀な人に囲まれ、「自分はこのままで良いのか、もっとできるはずではないのか」と気ばかり焦った時期もありましたが、自分の目的を再確認することで地に足をつけて実習を行うことができました。
Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	採血や縫合の技術や医学知識の不足、英語でのコミュニケーション能力不足への不安があった。また、VISAをとらずESTAで渡航したため、入国審査をパスできるか不安があった。

留学中のお気に入りの写真



コメント：少し春めいてきた頃の、ヴァンダービルト大学。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

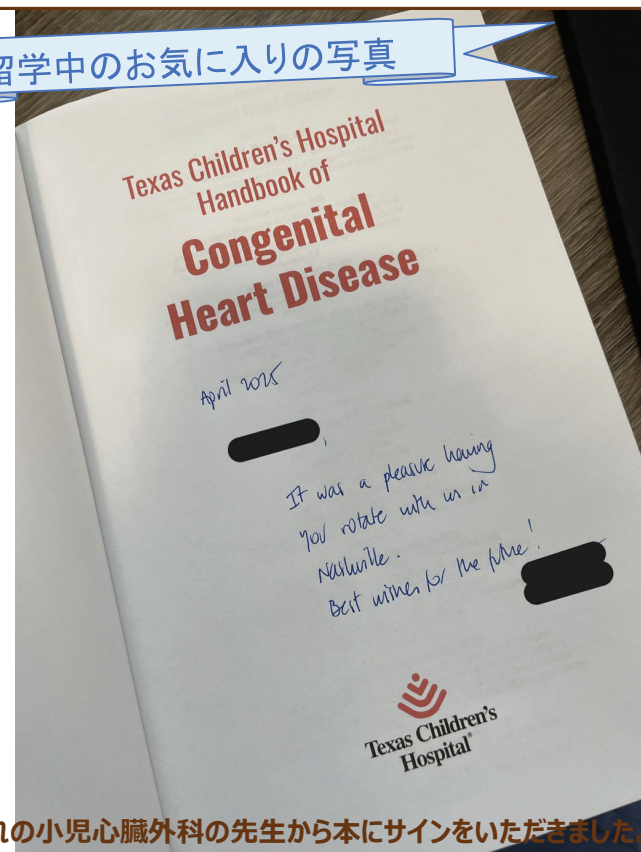
海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：ヴァンダービルト大学心臓外科(米国)

Q.今回の留学プログラムの感想	小児心臓外科の複雑な症例にアメリカトップレベルの外科医の先生方と毎日スクラビングすることができて、とても充実した実習でした。先生たちが手術中やオペ室の外でどんなことを考えているのかを直接聞くことができたのは大変勉強になりました。症例としては心臓移植および成人の先天性心疾患手術症例が充実している病院で、ほぼすべての手術で術野に入ることができるため、症例の面でも手技の面でも貴重な経験をさせていただきました。
Q.健康管理や危機管理について	テネシー州は平和な町なので、特に気を付けなければならないようなことはありませんでした。
Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	ヴァンダービルト大学の小児病院は米国南部では最大の小児病院で、非常に勉強になる症例が多いです。心臓外科に限らず、興味のある分野でぜひ実習に応募してみてください。事前に医療英語の研修もあるので、英語に苦手意識がある人でも、実習内容に興味を持てればぜひ応募してください。
Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	留学プログラムの選考過程が良くわからなかったので、先輩に相談しました。

留学中のお気に入りの写真




コメント：憧れの小児心臓外科の先生から本にサインをいただきました。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：ヴァンダービルト大学（アメリカ）

<p>Q. 今回の留学プログラムの感想</p>	<p>今回の実習では、アメリカの医学生とのコミュニケーション力の高さに特に驚かされました。学生の仕事の一つにドレーン抜去があるのですが、現地の学生は検査手技の説明を自分で行い、病態や検査結果に関する質問にも自信を持って答えていて、自分も診察の際はこんな風に患者さんと接したいと思うようになりました。実習内容では、臓器摘出・移植手術を見られたことが最も印象に残りました。臓器摘出手術ではドナーが出るとすぐに各病院の臓器摘出チームがその病院に駆けつけて手術を行っていて、臓器を無駄にしないという意識を感じました。肝臓移植手術では、脈管吻合の様子を近くで見たり、閉創を手伝ったりすることができてとても楽しかったです。</p>	<p style="text-align: center;">留学中のお気に入りの写真</p>  <p>コメント：一緒に肝胆膵外科を回っていたMS2の方と撮った写真です。</p>
<p>Q. 健康管理や危機管理について</p>	<p>大学病院ではほとんどの人がマスクをしておらず、私もそれに倣いました。なるべく暗くなってからは一人で出歩かないようにしていました。ニューヨークでうっかりモバイルバッテリーのケーブルを忘れてしまい、携帯の充電が切れた状態でホテルへの帰り道を探すことになったので、携帯の充電には注意すると良いと思います。</p>	
<p>Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</p>	<p>ヴァンダービルト大学では臓器移植がたくさん行われており、特に心臓移植は全米1位となっています。私の派遣期間では心臓血管外科の募集がなかったため心臓移植は見られませんが、移植手術自体は毎日に行われていたため、肝臓移植は十数件、腎臓移植も1件見ることができました。そのため移植に興味がある場合は本当に良い経験になると思います。また、米国で臨床を行うことを考えている人にも6年時の米国派遣はおすすめです。レジデントやフェローの方の忙しさを知ることができますし、米国外からアテンディングになっている先生もいらっしゃるの、ロールモデルになる方が見つかるかもしれません。</p>	
<p>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</p>	<p>プロセメの時は先輩からの引継ぎが派遣係の方から送られてきて、その引継ぎを参考に、いつ何を準備すべきか計画を立てたのですが、今回は特に引継ぎがなかったため準備に抜けがないか不安でした。また、実習がかなり忙しいという話を聞いていたので、どれくらい忙しいのか、家事をする余裕があるのかについては不安でした。</p>	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：ヴァンダービルト大学（アメリカ）



<p>Q.今回の留学プログラムの感想</p>	<p>自分はmedical oncologyのprimary care teamで実習をさせていただきました。当初は、癌治療を行う科だと思っていたのですが、既往に癌がある患者の諸々の問題を扱う科で、日本で言う市中病院が主に扱う症例から難しい症例までありました。一番驚いたのは、それらをほぼすべて1年目と2年目のレジデントが対応している点でした。毎朝、アテンディング（指導医）に報告・相談はするもの自分ですべて考え行動しており、自分も来年こうなりたいと刺激を受けました。また、全体的に患者さんとのコミュニケーションがとても丁寧で、患者さんと医療関係者の距離が近い印象でした。文化的な差もあると思いますが、患者さんに寄り添っているのをとても感じて、自分もこのようなコミュニケーションを心がけたいと思いました。</p>
<p>Q.健康管理や危機管理について</p>	<p>ナッシュビル到着初日、バスでスーパーまで向かっている途中にトルネードが発生して、バス停からスーパーまで50mもないくらいだったのですが、砂利とかすごい勢いで飛んできて命の危機を感じました。</p>
<p>Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</p>	<p>言わずもがな、臨床留学はとても貴重な機会ですが、医学部を卒業してから行くよりかはずっと学生の間の方が行きやすいと思います。そして、臨床留学は海外での医療を直接目にすることができ、大きく価値観が変わると思います。海外に少しでも興味がある方はぜひ挑戦してみるといいと思います。金銭的にも、準備も大変ですが、その価値は間違いなくありました。</p>
<p>Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</p>	<p>日本語でも医学を十分にわかっていないのに英語で学ぶというのがとても不安でした。現地に行ってみると、思ったよりいけるという印象が半分、カルテを見るとわからない言葉だらけでやはりスマホで調べることは多かったです。1週目は大変でしたが、2週目以降はだんだんわかってきてなんとかなりました。回診中の先生たちの会話はわからないことも多かったです（英語の問題か医学の問題かはわかりません…）。</p>

留学中のお気に入りの写真



コメント：日本でも有名なジャックダニエルはテネシー州発だそうです。Nashvilleにも他にウイスキー蒸留所がありました。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

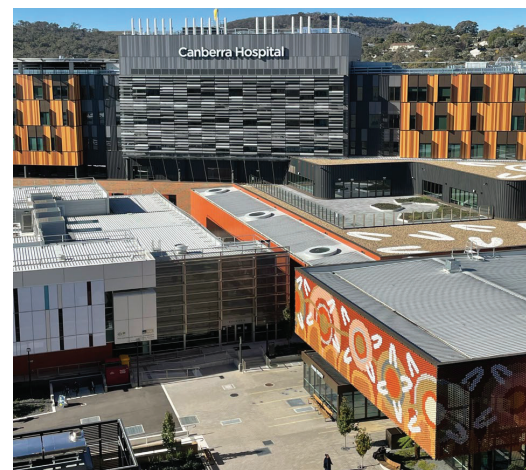
海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）

Q. 今回の留学プログラムの感想	現地の医学生は、静脈採血やルート確保といった基本の手技に加えて、医療面接や身体診察をもとにしたプレゼンテーションの経験が豊富だと感じた。彼らの臨床能力の高さを目の当たりにし、私も医学生として診療チームにどのように貢献すべきか、そして卒業後を見据えてどのようなスキルを身につけるべきかを改めて考えるきっかけとなった。また、医師が白衣を着ていなかったり、回診後にチームでコーヒーを飲みながらディスカッションしたりなど、日本の病院にはない文化も多く、新鮮だった。さらに、GPが患者さんの健康を総合的にマネジメントできる反面、専門医療を受けるまでに数ヶ月待つ必要があるなど、日本とは異なる医療制度の良い点と課題を学ぶことができた。
Q. 健康管理や危機管理について	病院までの道のりで信号がない大通りを渡る必要があり、安全には気を遣った。危険を感じる場面はなかったが、貴重品は常に携帯するよう心がけた。現地のインフルエンザの流行シーズンで、チームの先生でも病欠の方もいたため、マスクや手指消毒を意識し、風邪には気をつけた。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	医師をはじめとする医療スタッフや医学生、さらには患者さんなど、さまざまなバックグラウンドを持つ人々が集まる環境で実習できる。また、GPと大病院の専門医療が連携して成り立っている、日本とは異なる医療システムを学ぶことができる。さらに、他の派遣先に比べて長い2ヶ月間という期間にわたり、2つの診療科で実習できる点や、日本との時差が短いため、現地での生活への適応もしやすい点もANUの特徴だと感じる。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	ANUに提出する書類が多く、応募前に想定していたよりも準備に時間がかかった。また、先方からのメールの返信が遅く、オファーレターがなかなか届かなかったため、本当に留学できるのか、不安に感じた時期もあった。

留学中のお気に入りの写真




コメント：実習先のThe Canberra Hospitalは広くて綺麗な病院でした。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）

<p>Q. 今回の留学プログラムの感想</p>	<p>基本的に学生の自主性に任せられていたため、何を学びたいか、どんなことを経験したいかを明確に主張することの重要性が印象に残りました。そして、自分の希望を伝えれば、かなりの確率で応えて頂ける環境で、実りある実習が送れました。あまり英語力に自信がなく、最初のころはリスニングやスピーキングに苦労することも多かったのですが、2か月間を通して積極的に質問したり、困った時は誰かに頼ったり、自分の意見を伝えたりすることへの心理的なハードルが下がりました。渡航前より少しは精神的に強くなり、適応力も上がったと思います。</p>	<p>留学中のお気に入りの写真</p>  <p>コメント：キャンベラで見かけた野生のカンガルーです。</p>
<p>Q. 健康管理や危機管理について</p>	<p>オーストラリアでは医療従事者がほとんどマスクをしていませんが、インフルエンザが流行る時期なので、病院内では常にマスクをして感染対策をしていました。そして、意識して睡眠はかなり多めにとるようにしていました。また、危機管理に関しては、セキュリティーポーチに貴重品を入れ、常に持ち歩くのと、バスで寝ないようにしていました。</p>	
<p>Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ</p>	<p>ANUは海外経験が少ない方でも留学しやすい環境が整っていると思います！治安が良く、日本食の入手に困らず、そして移民に寛容な国で、医療従事者も患者さんも優しくフレンドリーな方が多いです。無理なく頑張るやすい環境でおすすめです。</p>	
<p>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</p>	<p>英語の会話力に自信がなく、また、2か月も海外で生活したことがなかったため、適応できるかが不安でした。また、寮が利用できず、学生向けの物件も半年以上の長期契約を前提としているものがほとんどだったので、住居探しが大変でした。</p>	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）



Q. 今回の留学プログラムの感想

多様な人種、文化的バックグラウンドの患者さんや医療スタッフが集まる環境での臨床実習という、大変貴重な経験をさせていただきました。留学開始直後は慣れない環境に緊張することも多々ありましたが、現地のメディカルスタッフの方々は職種問わず教育熱心な優しい方ばかりで、毎日充実した時間を過ごすことができました。外来見学や病棟での実習を通して、日本では見かける機会の少ない症例に接したり、英語で身体診察・プレゼン・ディスカッションを行ったり、様々なレクチャーに参加したりと、大変学びの多い時間でした。

Q. 健康管理や危機管理について

私が実習を行った5・6月は、オーストラリアでは秋から冬に季節が移り替わる時期でもあったため、朝晩の冷え込みが激しく、病棟でもインフルエンザ等が流行していたこともあり、体調を崩さないよう注意が必要でした。

Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

もしも留学するか否かを迷っている方がいたら、間違いなくおすすめ留学先です。多文化な環境や日本と異なる医療制度に刺激を受けることができただけでなく、キャンベラは治安も良いため、安心して実習生活を送ることができると思います。

Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと

実習開始にあたってのワクチン接種や証明書発行など、各種手続きが複雑で大変でしたが、先輩方の引継ぎ資料のおかげで無事に臨床実習に参加することができました。

留学中のお気に入りの写真




コメント：夕方、このcockatooという鳥が群れて飛ぶ様子が病棟の窓から見えます

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：オーストラリア国立大学（オーストラリア）

<p>Q. 今回の留学プログラムの感想</p>	<p>オーストラリアのキャンベラ病院での実習で最も学びになったことは、Long caseを通して患者さんとの関わり方を学べたことです。Long caseとは患者さんに問診と身体診察を行い、鑑別疾患や治療方針を考察した上で、上級医にプレゼンテーションを行いフィードバックを受けるという一連のプロセスのことです。オーストラリアでは学生時代からLong caseを行うことで、実際の患者さんを通してアセスメント能力を磨くことができます。留学生の私たちもお願いするとLong caseに挑戦させていただき、症例の理解を深めることができました。加えて、オーストラリアのLong caseでは患者さんの主たる病気だけでなく社会的な背景（経済状況、周囲の人の支えなど）も把握し問題への対処策を考えます。そのため、自然と社会的な背景も含めてアセスメントする力を身につけることができました。この経験はその後の日本での実習にも大変生きていて、本当に参加して良かったと感じています。</p>	<p>留学中のお気に入りの写真</p>  <p>コメント：消化器内科でお世話になったJMO、BPTの先生方と最後の日に撮った写真</p>
<p>Q. 健康管理や危機管理について</p>	<p>実習初日に事務員さんの案内のもとICカードを受け取るはずでしたが、事務員さんが体調不良で不在、また私が姓名を逆に登録していたため「システム上に君の名前は無い」と言われて焦りました。体調不良は致し方ないが、実習1週間前あたりに一度「来週よろしく願います」と事務局にメールを入れておいた方が良かったかもしれません。</p>	
<p>Q. 今回の派遣先への留学を希望している先輩たちへのメッセージ</p>	<p>オーストラリア派遣は非常に柔軟性の高いプログラムです。自分からやりたいことを見つけて積極的にアプローチしていくことで多くのものが得られます。先生方は非常に優しく教育熱心で、「教えることも仕事の一つ」という意識が根付いているため、遠慮することなく質問やお願いをしていくと想像以上の経験ができると思います。医療制度の違いだけでなく、キャンベラ病院では人としてniceな医療スタッフにたくさん出会うことができるというのが大きな魅力です。ぜひ実際に現地でオージー文化を感じてみてください。</p>	
<p>Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと</p>	<p>留学プログラムに必要な費用が意外と高かったため、そこまでして行くべきものなのかを非常に悩みました。また、英語力に自信がなかったため実習についていけるかという不安は強かったです。</p>	

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学/派遣先（国名）：国立台湾大学（台湾）

留学中のお気に入りの写真



コメント：国立台湾大学病院（旧館）は、東京大学が東京帝国大学だったころに建

Q. 今回の留学プログラムの感想

海外で一人で生活するというのが、日本の生活とは全く違って新鮮だった。初日からご飯を食べるところを探し、ホテルに帰ってきて準備をして寝る、朝ごはんも何とか用意する、というのは外国であるというだけですべて少し大変で、でも楽しい経験となった。病院実習をして驚いたのは、内科の医療レベルが高く患者一人ひとりに親身に対応していた点である。日本と違いかかりつけ制度がない台湾では、全くの初診患者がどんどん受診してくる。そのたくさんの方をさばきつつ医療を成り立たせていることは尊敬であった。衛生観念などは日本に比べて適当であったが、数年、数十年後は日本のようになるのかと考えると、その差を身をもって体験できたのはとても面白く貴重だと感じた。

Q. 健康管理や危機管理について

台湾は日本よりもずっと湿度も気温も高いため、急に天候が変わったことで夏バテになってしまった。水分補給や睡眠時間に気を配るなど注意が必要だった。

Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ

台湾は現地の人がとても優しく、病院の先生や同級生がとても親身になって色々教えてくれたのでそこは不安にならなくても大丈夫です！もちろん観光でも行く先行く先優しい人に助けられました。英語力に自信がなくても勢いで応募してみてください。自分の実習スケジュールと相談して観光時間も十分取れたので、台湾に興味がある人、海外に留学してみたい人にとってもハードルが低くチャレンジできるんじゃないかなと思います。

Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと

英語で医学を勉強しているのか、学生と友達になれるか、台湾の食生活になれることができるかと不安だった。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：Cedars-Sinai Medical Center（アメリカ）

Q.今回の留学プログラムの感想	アメリカでの臨床実習を通して、日本とアメリカの医療システムの違いを実感することができました。一番大きな違いは保険です。日本には国民皆保険制度がありますが、アメリカでは高齢者対象のMedicareを除き、公的な保険はありません。患者さんが受ける治療の内容も患者さんが加入している保険によって変わります。そのため、「高い治療は諦める」という状況も珍しくないのです。他に、裕福な人と貧しい人の格差の大きさにも驚かされました。ある高級老人施設では毎日ホテルのスイートルームに滞在しているような生活をしている方もいれば、そのすぐ近くでギャングに入ることしか生計を立てられない人もいました。留学を通して自分の目で見ることで、日本の良さ、アメリカの良さを再確認できました。
Q.健康管理や危機管理について	健康管理については、ロサンゼルス気候は暑すぎず寒すぎずで過ごしやすく、体調を崩すことはありませんでした。危機管理については、市内の特に危険とされる地域には近づかないこと、深夜に出歩かないことは心がけていました。
Q.今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	大学の提携ではなかったため、自らアポイントメントを取り、留学を交渉するというプロセスを経ました。留学に本当にいけるか分からない時期もありました。提携していない大学や病院に留学するためには自分で全て段取りを進めなければならないため、非常にハードルが高いですが、もし高いモチベーションがあるようでしたらぜひ挑戦してみてください。
Q.留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	そもそもの臨床知識や医療英語のボキャブラリーが足りているのか、渡航前は不安でした。実際に実習に参加してみても思ったことは、事前に準備できることは限られていて、結局現地で経験して覚えることが多かったです。

留学中のお気に入りの写真



コメント：ロサンゼルスの特徴であるHollywoodの看板とロサンゼルスらしい晴れ空で

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声



留学先・派遣先大学名（国名）：コロンビア大学（アメリカ）

Q. 今回の留学プログラムの感想	臨床面では、日本で経験できないような症例が多く大変勉強になりました。アメリカでは様々な背景を持った医師、研究者、学生が入り混じって実習をしているため、アカデミックな場面で非常にチャンスに恵まれており、臨床実習にとどまらず研究に至るまで幅広く経験を積む機会をいただきました。
Q. 健康管理や危機管理について	睡眠時間と食事の時間が全然なかったため体調管理が大変でした。NYは確かに治安の悪さが目立つ場面もありますが、気を付けていれば危険な目にあうことはないはずです。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	アメリカでの実習中に会った学生は医学知識や（外国人の場合は）英語の能力など千差万別であったので、ぜひ臆せず挑戦してください。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	特になし

留学中のお気に入りの写真



コメント：日中はずっと実習だったので、NYでは夜景ばかり見ていました。

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

海外留学 先輩の声

留学先・派遣先大学名（国名）：マウントサイナイモーニングサイド病院



留学中のお気に入りの写真



コメント：

ご協力ありがとうございました！今回の海外経験を糧に、これからもがんばってくださいね。
国際教育課 湯島海外留学グループ 一同

Q. 今回の留学プログラムの感想	回診で身体診察やプレゼンテーションなどを行うことができ非常に充実した実習だった。また、米国の医療システムや医学教育の違いを知ることができ、大変貴重な経験となった。今回実習を行った病院は老年内科が強く、老年内科での実習を通して高齢者のケアに対する知見を深めることができた。日本も高齢社会のためこれから医師としてより多くの高齢者のケアに当たると思うので、今回の経験を活かしてより患者様が満足するケアを提供したいと思います。また、今回の実習を通して自身の英語の不足を痛感したので今後も語学力を高めたいと感じました。
Q. 健康管理や危機管理について	基本安全であったが、日本ほど治安は良くないので危険な地域は避けるようにしていた。駅のホームで後ろに立つ、不可解な人がいたら次の駅で別の車両に移るなどは一応行っていた。
Q. 今回の派遣先への留学を希望している後輩たちへのメッセージ	自分の将来のキャリアなどを考えて、学びたいこと、行うべきことを固めてから留学するとより充実した実習になると思います。公募のプログラムでしたが科学大のプログラム以外にも公募のプログラムは探せば割とあるので、興味がある方はぜひ公募のプログラムも調べてみてください。
Q. 留学プログラムへの応募前や選考、渡航前などに大変や不安だったこと	英語の会話力に自信がなかったこと、アメリカは治安が心配であったこと。